

# さくらそう通信

## 長野県佐久市郊外のサクラソウ



可憐な花のサクラソウ



農道の脇に見られたサクラソウ群落

水路の斜面に繁殖するサクラソウ群落



### サクラソウがさいたま市の花になりました

さいたま市は、平成14年5月1日付けでサクラソウを「市の花」に制定しました。広くサクラソウに関する情報を御紹介している「さくらそう通信」でも、その経緯を記録、御報告したいと思います。

さいたま市の「市の花」選びは、市の誕生した平成13年中にスタートしています。まず第一段階は候補の絞り込みでした。候補選定の検討作業は、有識者、コミュニケーション専門家、市民代表などにより構成され、市のコミュニケーション活動を統括する「コミュニケーション委員会」により行われました。ちなみに、13年10月制定のさいたま市章もこの委員会が選考を担当しています。

委員会は「市内の天然記念物・希少植物であるもの」、「市内に広く分布して市民に親しまれているもの」、「家庭でも育てやすいもの」などの中から、次の5種を候補に選びました。

- クリスマスローズ（キンポウゲ科）
- コスモス（キク科）
- サクラソウ（サクラソウ科）
- ツツジ（ツツジ科）
- バラ（バラ科）

これらの候補から「市の花」をひとつ選ぶため、14年1月に市民アンケートが行われました。アンケートは市内在住・在勤・在学の方を対象として、所定の用紙を市立公民館などで回収するほか、官製ハガキでの応募も受け付けるというかたちで行われました。ほぼ1ヶ月の募集期間の間に、無効票も含めて1万3千票を超える回答が寄せら

#### ■アンケート結果

候補名	票数	集票率(%)
サクラソウ	7,062	55
コスモス	2,089	16
クリスマスローズ	1,364	10
バラ	1,236	9
ツツジ	1,129	9
無効票	142	1
合計	13,022	100

れましたが、サクラソウへの票は7千票を越え、集票率は55%に達しました(別表参照)。

このアンケート結果は、再度コミュニケーション委員会の手で検討され、サクラソウを「市の花」とすることが決定しました。委員会の席上、サクラソウは過半数を超える得票だったため、特に異論は出なかったということです。もっとも、市域に田島ヶ原の自生地、鏡乃原桜草園があるさいたま市としては、当然の結果ともいえるのではないのでしょうか。ところで、サクラソウは「埼玉県の花」にもなっています。こちらは昭和46年11月5日に制定されています。

なお、「市の花」選びと同時に「市の木」選びも行われました。同様の手順により行われたアンケートの結果は、1位のケヤキと2位のサクラが僅差であったため、「市の木」をケヤキとし、新たに「市の花木」というジャンルを設け、サクラとするかたちで落ちついています。

## 田島ヶ原サクラソウ自生地を守るための、もう一つの課題

「田島ヶ原の貴重な自然が失われようとしている」「土地が乾燥するようになり、サクラソウなどの湿生植物は生存の危機的状態になっている」「帰化植物が繁殖して在来植物が危ない」「訪花昆虫がいなくなってサクラソウは種子ができないため、やがて絶滅するだろう」

このように、田島ヶ原の自然が損なわれている状態について、いろいろな指摘がなされています。指摘の多いことは、それなりに田島ヶ原の自然が損なわれている証拠の指針であり、田島ヶ原の自然に対する大勢の人々の関心の高さを示す指針でもあるので、指摘を謙虚に受け止め、田島ヶ原の保護保存に役立てています。

指摘された内容のほとんどは、初めに掲げたような自然環境の変化で生じた現象についての意見です。保護保存のためとはいえ、自然環境の変化で生じた現象を元に戻すことは至難の技です。指摘されたことに応えるため、いろいろな対処法を駆使して、少なくとも田島ヶ原が天然記念物に指定された当時の植生を維持するように努力しているのが現状です。

ところで、田島ヶ原の自然を損なっている原因は別にもあるのです。不思議なことに、ほとんど指摘されませんが、人間が直接行っているものです。それらの行為の多くは日常的に繰り返されているので、何とか歯止めをしないと、田島ヶ原の自然は人間によって直接破壊されてしまうでしょう。

その幾つかを掲げてみましょう。

指定地内の植物を薬用・食用・手芸用・園芸用に採取する行為があります。トラックで乗り付けて、草を刈り始めたので聞いたところ、驚いたことに馬の飼料にするとの答えでした。数人の婦人が夢中になってオギの穂を積んでいるので尋ねると、手芸の材料にするとの答えでした。指定地内の一部に生育していたフキは、フキノ

トウや若葉を摘まれて消滅してしまいました。

バーベキューなどで使った木炭やおき火を指定地内に捨てる行為があります。公園内での使用は禁止されていますが、使用後に持ち帰らず捨てる例が絶えません。木炭は腐らずに残り、おき火は植物を枯らすので困りものです。

指定地内でバイクを乗り回す行為があります。指定地内に植物を踏みじった轍(わだち:車の通った跡)が残っているのを見掛けます。数人の若い男性が3台のバイクを指定地内に入れていたので聞いたところ、草原の中を走るようすを写真に撮るとの答え。なぜ指定地内にバイクを入れてはいけないのかと、逆に質問されたのには驚きました。

指定地内にゴミを捨て廃棄物を置いて行く行為があります。駐車場で自動車の掃除をして、タバコの吸い殻、空き缶、ペットボトル、雑誌などを捨てるほか、建築資材、自動車の部品、電気製品などの大型の廃棄物を置いて行く例も絶えません。

こうして、人間が田島ヶ原の自然を直接破壊した後始末も、保存管理の必要から行っていますが、そのために必要とする人手と費用は少なくありません。後始末をしなければ、とうに田島ヶ原の自然はめっちゃめっちゃになっていでしょう。

サクラソウ通信の話題としては暗くて楽しくはありませんが、田島ヶ原の自然を守る上で必要な今一つの課題として、多くの方々に考えていただきたいのです。

(さいたま市教育委員会)

## サクラソウの自生地を尋ねて 磯田 洋二

### 長野県佐久市郊外のサクラソウ自生地

私がこの場所を訪れたのは1999年6月1日のことです。目的はサクラソウの訪花昆虫(花の蜜を求めて集まる昆虫)を調査することでしたが、ここと田島ヶ原のサクラソウの生育状況を比較することも目的の一つでした。

長野県の佐久市は、周囲を荒船山、浅間山、蓼科山、八ヶ岳などの火山に取り囲まれた盆地(佐久盆地)の中にあります。まわりの火山の麓からは多数の沢や谷川が流れ出して、盆地の中を流れている千曲川に注いでいます。これらの沢や谷川に沿ってサクラソウ自生地が点々とあるのですが、自生地を保護する必要から、現在ではその場所を詳しく明かすことができません。

ここに取り上げる自生地も、その中の一つですが、場所を大まかに示せば佐久盆地の東の縁に当たっています。そこは、妙義荒船佐久高原国定公園内にある荒船山(1423m)から西方に伸びている尾根の標高850m付近の山麓で、自生地の脇を千曲川の支流が流れています。

ここのサクラソウ自生地は、広さが約7000㎡で、谷川に沿った約200mの間に20mから70mの幅で広がっています。土地の大部分は田畑で、上流から下流に向かって4



表 サクラソウ群落と出現する植物の状況

田島ヶ原 (00.4.17調査)			佐久市 (99.6.1調査)		
出現植物	被度	高さ	出現植物	被度	高さ
サクラソウ	34%	14cm	サクラソウ	59%	16cm
オギ	29%	17cm	カメバヒキオコシ	13%	31cm
アマナ	16%	7cm	チダケサシ	12%	29cm
ソウルシ	2%	17cm	ウマノアシガタ	11%	6cm
ノカラマツ	2%	7cm	イラクサ	9%	8cm
ヤエムグラ	2%	3cm	コバギボウシ	6%	19cm
スギナ	1%	17cm	コクサギ	6%	24cm
ヨシ	1%	15cm	カキドオシ	5%	21cm
ヤブガラシ	+	5cm	キツリフネ	5%	18cm
			ノコギリソウ	5%	31cm
			ミソソバ	5%	25cm
			サラシナショウマ	5%	29cm
			ノハラアザミ	3%	17cm
			ヨモギ	3%	23cm
			コシロネ	3%	22cm
			ツボスミレ	2%	20cm
			コンロンソウ	2%	30cm
			ヤマゼリ	2%	27cm
			チガヤ	2%	44cm
			カラコギカエデ	2%	27cm
			トボシガラ	2%	34cm
			ノダケ	2%	27cm
			ヤマフキ	1%	20cm
			スイカズラ	1%	21cm
			ヒメシダ	1%	10cm
			ユウガキク	1%	18cm
			スギナ	1%	15cm
			ナンテンハギ	1%	3cm
			オオバノヤエムグラ	+	16cm
			マユミ	+	15cm
			ミスズキ	+	5cm

備考

調査面積は1m<sup>2</sup>の区画です。  
被度は出現した植物が、調査した区画の中を占める割合を%で示したものです。  
+は割合が1%未満の場合です。

光が当たってサクラソウの成長に都合が良くなるためです。このサクラソウ群落の中でサクラソウと他の植物との関わりは、どのようになっているのでしょうか。調査した6月1日にサクラソウは満開の時期を少し過ぎていました。サクラソウは草丈が16cmで、もっと草丈の高い植物もありますがサクラソウの上をほとんど覆っていませんでした。出現植物の中にサクラソウの日当たりを妨げた



田島の境界の崖地に生育するサクラソウ群落

植物が見当たらないことから、サクラソウが開花するまでの生育期間は陽光がよく当たっていたということがわかりました。

サクラソウが開花した後はどうなるのでしょうか。出現植物の中でサクラソウ・トボシガラ・ウマノアシガタ・コシロネは初夏には枯れてしまいますが、他は夏季に繁茂する植物です。その多くは双子葉高茎多年草と呼ばれる

草丈の高い大型植物なので、夏季には双子葉高茎多年草の優占する群落に変化する筈です。その結果、サクラソウ群落は夏季になると田島ヶ原はオギの優占する群落に、ここは双子葉高茎多年草の優占する群落に変化して、夏季には両方の群落は全く異なったものになることがわかりました。

ところで、群落は異なってもオギと双子葉高茎多年草は草丈が高くなるので、その下の地表が暗くなって生育できる植物が減り、サクラソウの競争植物が少なくなることでは同じ効果があります。しかし、調査したサクラソウ群落では出現植物の多くが、

地上と地下で激しい生存競争を行う多年草と幼木なので、これらの植物はサクラソウの繁殖を妨げるので、サクラソウはこれらの植物との生存競争に負けてしまいます。そのために、調査したサクラソウ群落は、やがて消滅してしまうことが予測されました。

地元の方によれば、このサクラソウ群落は見学者などに持ち去られるようになって、株を植えて繁殖させる取り組みをしているとのことでした。今回、このサクラソウ群落の構造を調べたところ、調べたサクラソウ群落は最近できた新しいもので、一緒に生育している植物の多くがサクラソウの繁殖を妨げていることがわかりました。このことは、サクラソウを繁殖させようとして、サクラソウの株をサクラソウの繁殖を妨げる植物の間に植えてしまったことが原因になっているのでしょうか。このようなサクラソウ群落の消滅を防ぐには、サクラソウの競争植物を除去するなど、適度に人手を掛けて管理をする必要があります。

貴重なサクラソウの自生地で、このようなことになってしまったのは、自生地からサクラソウを持ち去る人がいたからです。自然を守り大切にすることをみんなが持たなければと、改めて思いました。

(さいたま市文化財調査専門員)



株の移植で増えたと思われるサクラソウ群落



結実期のサクラソウ群落

